

## 鳥の絵課題（TOB）の各タイプの見方・考え方

TOBの各タイプの行動特徴や学習上の困難について見ていきましょう。指導の手だてにつなげていくためには、反応をできるだけ肯定的に捉えます。子どもの反応を「～ができる」と捉えることによって、手だてが見えてくるのです。6つの絵の上段は見本動作の影響を受けるので除き、下段の鳥について各タイプに分類します。各事例の行動とその解説を添えました。

### ①タイプ 殴り描きの段階

ペンをもって描く前に、紙をもって振り回したり、払いのけたり、破くことを楽しむ段階があり、全体への殴り描き、個々の鳥への殴り描きに変わっていきます。つまり、①タイプは3段階に分けることができます。

#### 【①-1タイプ】シートを渡されると振り回す、噛む、ちぎるなど

⇒【見ることよりも音や感触、運動の結果に関心がある】と考えます。



写真 シートを渡されると振り回す

写真カードや絵によるコミュニケーションはまだ難しい段階です。指示や予定を伝えるためには、実物(使う道具など)を提示する方がよく伝わります。「触って動かしてすぐに結果が出る」活動を用意します。

#### 【①-2タイプ】全体に殴り描き⇒【ペンと紙の機能を理解している】と考えます。

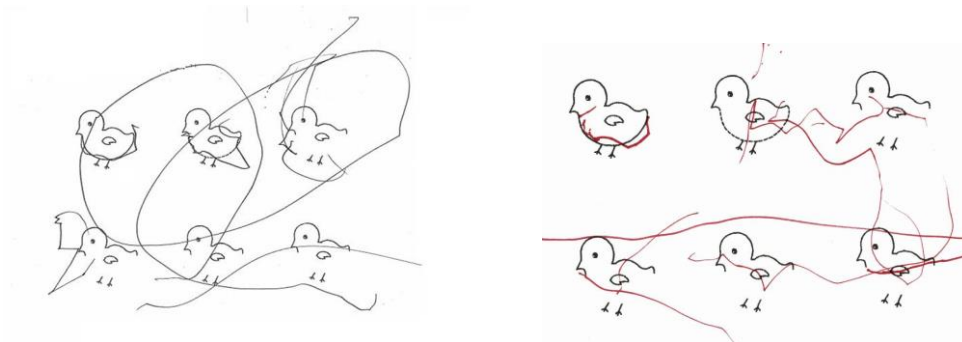


図5 ①-2タイプ（全体を殴り描き）の例

コミュニケーション方法は(1)と同様です。あらゆる活動で、始まりと終わりを明確に伝えることで行動がまとまっていきます。「指さし」が意思表示の役に立つことを徐々に教えていきます。

【①-3タイプ】ひとつずつに働きかける

⇒【1つ1つの鳥が分離して見えている】と考えます。

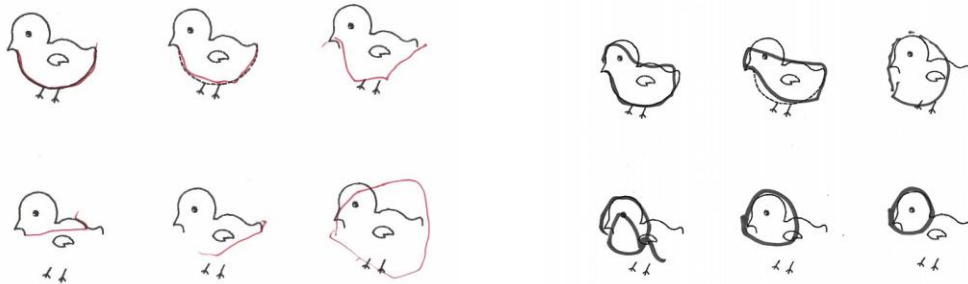


図6 ①-3タイプ（個々の鳥を描こうとする）の例

注視・追視を通して視覚的イメージが形成されなければ、言葉とその物を結びつけることもできません。穴にビー玉を入れたり棒をさしたりする活動の中で、一点を注視する機会を増やしていきます。日常場面では、子どもが自発的に対象に視線を送る瞬間を見出して、教育活動に取り入れていきます。

事例：Aさん 7歳男（Stage I-3：指さしが出てきたところ）

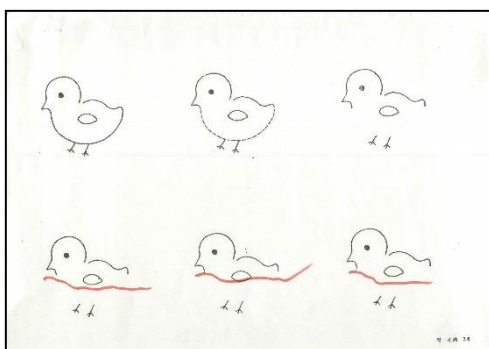


図7 ①-3タイプの事例

＜担任の報告＞4月は発信行動に乏しかったが検査実施時（6月）には指さしによる表現があり、LDT-R1は6問中3問まで指さしで応じることができた。日常生活全般で大人の支援を必要とし、自ら取り組むことが難しい。緊張しやすく、不安になると担任や友だちを攻撃する。過去に聞いた言葉を抑揚なくつぶやいていることがある。絵カードや顔写真カードなどの理解を促したい。

<CBQ-Rで「非常に目立つ」に丸がついた項目>

- 人を押ししたり叩いたりつねったりする。
- 物を投げたり、叩いたりする破壊的行為がある。
- 不安になったり怖がったりしやすい。

<解説>

遅延エコーリー（過去に聞いた言葉をつぶやく）ですが言葉の表出があるので、指示が理解できるように誤解され、支援者からの言葉かけが多くなりがちな事例です。

シンボル機能が育つきざし（絵が1つ1つまとまって見えている、始点と終点を結ぶという課題の意図に答えようとしているなど）がありますが表現手段に乏しく、これから起こることへの予測が困難なことも、不安や緊張の背景にあると思われます。自傷（意識が自分に向かう）よりも他害（意識が他者に向かう）の方が、外界への関心の強さやコミュニケーションへの意欲を表しているといえます。コミュニケーション手段としては、絵カードや写真カードよりも指さしや身振り・実物を渡すなどの方法を考えてください。指さしや身振りなどにより要求が伝わるようになり、教室では次の活動を予測するための手がかりがあると、不安が減って他児への攻撃が軽減していくかもしれません。絵の理解につなげるためには、さす、入れる、はめるなどの操作（太さの違う棒さしの課題など）を通じて注視を促すことが必要です。

## ②タイプ 目や羽、足など、目立つところのみ部分的に描く段階

⇒【特別な(尖った、先端の)部分なら注視できる】と考えます。

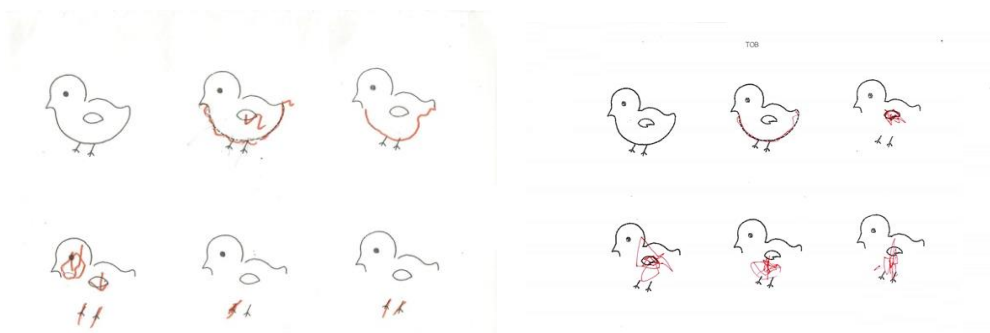


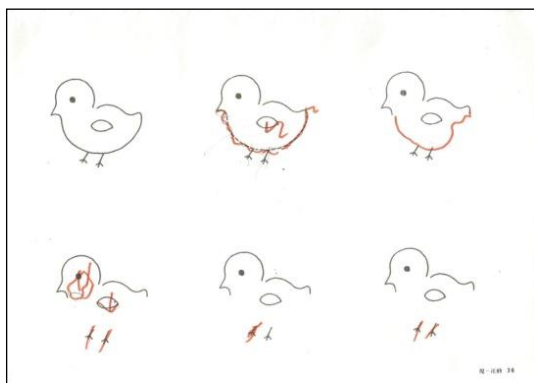
図8 ②タイプ(細かい部分に注目する)の例

注視は上手になってきていますが、見比べなどはまだ難しく、はめ板などは押し付けて入れています。好きなものは目ざとく見つけますが、見たからといって形や大きさ、向きなどが把握できるわけではありません。大きな教材（例えば公文の絵カードなど）では全体を把握することができませんが、指先でつまめるような、小さな物(教材)を使うと対象全体を見ることができます。

①タイプと同様、手を使った操作的な学習を中心に働きかけていきます。はめる、揃える、並べてさすなどの活動が効果的です。これらの活動を通して空間が広がり、注視、追視、見比べの力が育っていきます。滑らかに軌跡や形の輪郭を追えるようになると、方向、位置関係にも気づいていきます。目の動きをよく観察しましょう。右を見て、左を見て、また右に戻ってくるようでしたら、「見比べ」が可能になっています。「見比べ」は比較の基礎であり、物の特性を理解するための重要な行為です。

このタイプは、Stage I -3 からⅡにかけてよく見られます。行動的には受動型が多く、いわゆる「指示待ち」という状態になりがちです。一方、StageⅢ-2 位で TOB がこの段階の場合は、運動系の遅れが顕著で不器用、行動にまとまりがない印象になります。

#### 事例：Bさん 7歳男（StageⅡ：要求を伝えようとする発声や言葉がある）



＜担任の報告＞指さして要求を表現する。話したい気持ちがあるが、うまく発語できない。色がわからない、視野が狭い、廊下などで真ん中を歩けず、すぐに端に寄ってしまう。大人を頼って行動することが多く、自発的な動きが見られにくい。

図9 ②タイプの事例

＜CBQ-Rで「少し目立つ」に丸がついた項目（「目立つ」「非常に目立つ」はない）＞

- 言葉はあるが会話にならない。
- 自分の体を叩いたりする自傷行為がある。

- ・人を押したり、叩いたり、つねったりする。
- ・食べ物に好き嫌いがある。
- ・においをかぐくせがある。
- ・動きが多く、落ち着かない。
- ・手先の細かい作業や身のこなしがぎこちない。

<解説>

線をしっかりと見てたどる段階の前に、細かい部分に注目する段階（②タイプ）があるようです。一度見るとそこに注意が集中し、他の部分と比べたり見回したりしながら全体の中の部分を把握するということできません。

「視野が狭い」という印象については、見える範囲が狭いというより、注意を向けられる範囲に限られる（認知の空間が狭い）と考えた方が妥当です。教材などの提示は一目で全体が目に入る位の小さな範囲から始めた方がよく、大きな教材よりもつまめるような小さな教材が適しています。CBQ-Rからは、味覚・嗅覚など近位感覚へのこだわりが残り、目に見える秩序（そろえたり並べたり）への関心が育つのはこれからといえます。姿勢を整え、A4サイズ位の学習枠を使い、操作と結果の関係がわかりやすい教材（入れたら音が鳴るなど）で、行為の始めと終わりを意識させるようにすると、行動のまとまりにつながっていきます。空間を広げるためには、触覚の助けを借ります。つまり、目よりも上、肩幅より外側のものを意図的に触らせることにより、認知の世界が広がってきます。認知の世界の広がりにより見えないものを想像する力も育ち、予測できないことへの不安が減って、興奮も軽減されると考えます。

**③タイプ** 見えている線のみを忠実になぞる段階

【視線で滑らかに線を追えるようになってる】と考えます。

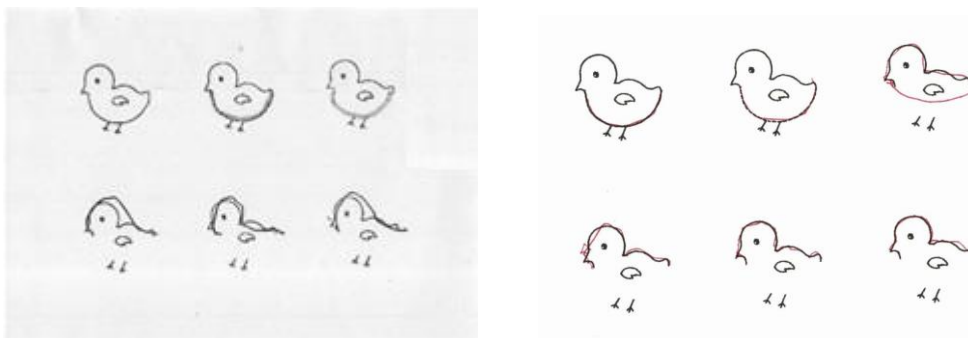


図 10 ③タイプ（見えている線のみをなぞる）

見本動作で腹を描いているにもかかわらず、見えない線を描くことができません。つまり、「今、ここ」の世界で生きているのです。しかし、輪郭をたどって見ることができるようになると、「見本」の意味がわかり、マッチングを手がかりに学習が進むようになります。このタイプは StageⅢ-1 の ASD でよく見られ、典型的な「ASDらしい」行動（予定の変更に弱い、言葉よりも絵や写真の方がよく通じるなど）をしています。

TOB を通して、言語と運動のアンバランスがわかる場合もあります。たとえば、右の事例は、太田ステージ評価では Stage I -2 です。Stage I -2 では、まだ言葉の理解に至りません。見た目の器用さ（文字のなぞり書きができるなど）に惑わされて国語や算数で高い課題を要求すると、情緒が不安定になりがちです。

「今、ここ」の世界で生きているこの段階では、手の運動の時間的な予測が困難なため、らせん状のなぞりや八の字を描くことができません。それぞれ、「見えたそのまま」の形を描こうとするのです。

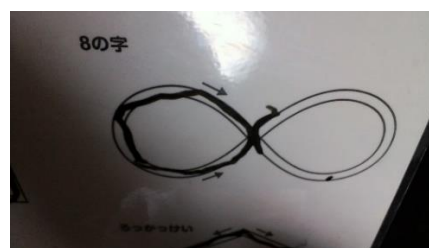
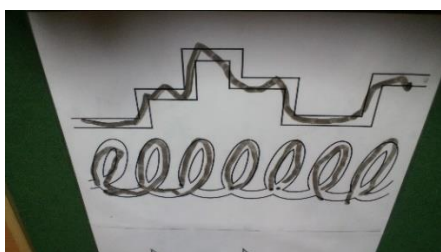


写真 手の運動の予測ができないので交差が描けない

このように、このタイプでは、見えているものに頼って行動し、見えないもの（時間、運動の予測、予定、人の気持ち、暗黙のルール）を想像することが苦手です。

「見えないものが見えない」ことは、日常行動にも大きな影響を与えます。たとえば、「時間」の理解が難しいということは、すなわち、「待つ」ことが難しいということです。目の前に物があればすぐに手を出そうとし、教室では、しばしば「待って」といわれています。しかし、子どもにとっては、目の前に物があることそのものが「やってください」というメッセージになっています。そのため、やってほしくないときは、目の前に出さないようにする必要があります。

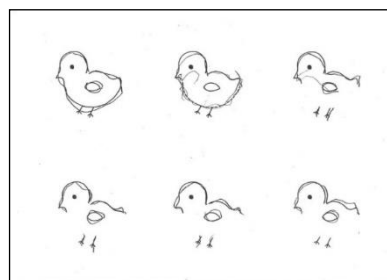


図 11 ③タイプの事例



## 事例：Cさん 7歳男(StageⅢ-1：物の名前の理解がある)

＜担任の報告＞マッチングや数字並べが得意。オウム返しが多い。1から10までの数字を順に並べることはできるが、「1はどれ？」と尋ねられて正しい数字板を取ることにはできない。新しいことや新しい場所が苦手。不安になると耳ふさぎをする。一度外出して帰ったらその日はおしまい、というように、自分で行動パターンを決め、周囲に合わせることは難しい。

＜CBQ-Rで「非常に目立つ」に丸がついた項目＞

- ・ 会話がパターン化したり奇妙であったりする。
- ・ 特定のものに強い愛着を示す。物の置き方や順序にこだわる。
- ・ 耳を覆ったり、音に不快を示す。
- ・ わけもなく笑ったり泣いたりかんしゃくを起こす。
- ・ ごっこ遊びや人とやりとりする物まね遊びをしない。

＜解 説＞

---

見えている線だけ忠実に描き、見えない線を描かないことは、「今、ここにある世界」が全てで、視覚に強く依存して生活していることを現しています。マッチング、数字並べが得意なこと、物の配置（見え）へのこだわりが強いことなども、視覚を優先して使う認知の特徴といえます。日常生活では、並べる、揃える、しまうなど、社会生活に必要な生活スキルを育てるよい機会です。

StageⅢ-1ではオウム返し(聴覚刺激の即時模倣)が多く、言葉の機能に気づいていたとしても、会話をすぐに理解することは苦手です。そのため、なおさら見えているものに頼る傾向が強くなります。物(材料)がある限り活動を終えることができないのもこの段階の特徴で、「終わり」を決めるには視覚的な手がかり(材料を見えなくするなど)が必要です。周囲の状況を目で理解しようとするだけに、言葉の指示が理解の邪魔になることがあります。行動のパターンを自分で決めるのは、外側から与えられた刺激で代替イメージを作ることが難しいためと考え、絵カードなどで予告をしながら穏やかに変える工夫が必要に思います。わけもなくかんしゃくを起こすのは、ざわついた雰囲気や我慢できなくなることかもしれません。まだ大人を頼って行動していますので、徐々に子ども同士の関係に関心を広げる支援が必要です。

---

#### ④タイプ 線が揺れる、足との間に隙間があくなど

⇒【運動のはじめと終わりがわかり、形の予測ができる】と考えます。

始点と終点が結ばれ、課題の通過条件を満たしていますが、線の端がきちんと結びついていない、足との間に隙間が空いている、描線が揺れるなど、注視・追視の不安定さが現れています。

④タイプから「通過群」で、多くは StageⅢ-2 以上で(表6参照)、簡単な日常会話が可能です。見えないものが見えてくることと言葉の伝達機能が充実してくることの背景には、共に「イメージする力(表象機能)」があるからと思われます。

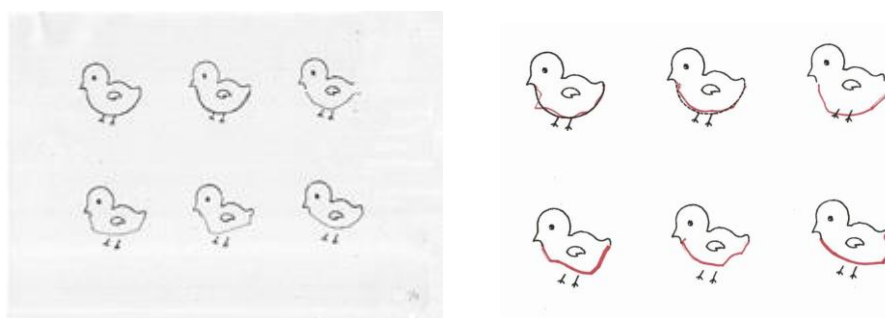


図 12 ④タイプ (線が揺れる、足との隙間があく)

描線が揺れる、足との隙間があく、ということは、定位(注意を向ける)や注視、追視に使う目の筋肉運動もうまくコントロールできないということを示唆しています。このタイプは気が散りやすいことが特徴的です。全体的に発達の水準が低い場合は集中に欠けてもさして気にならないものですが、双方向の会話が成り立つ場合は、逆に気の散りやすさが気になるものです。気が散りやすいこととこだわりが同居するのもこのタイプの特徴です。指導者が「気が散っている」と感じるときに、実は別の何かに気をとられている(こだわっている)こともよくあります。

このタイプでは、言語理解が進むと同時に、「できない自分」に気づいて気にするようになります。失敗を避けるため、「わかっているのにやらない」ようにみえることがあります。手順表などをうまく使い一人でできるように環境をセットして、目標がわかったらできるだけ手を出さないようにする配慮が必要です。周囲の音や接触、声かけも含めて働きかけが多いと不安定になりますので、刺激を統制し、静かな環境を用意します。思春期では、「カッコいい」モデルを見て頑張るといふことがありますので、やや機能が上の子どもを傍に配置することも効果的です。



事例：Dさん 8歳女（StageⅢ-2：2語文以上で会話をする）

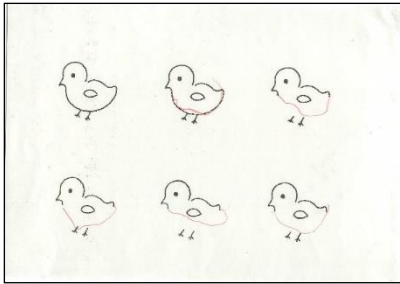


図 13 ④タイプの事例

＜担任の報告＞興味が移り、着席が長続きしない。気分のムラも多く、活動の流れに乗れないことが多い。自分のやり方があり、それにこだわる。一方、評価を気にし、競争で負けると泣くこともある。友達の行動が気になり、特にルール違反を嫌がる。天井のしみ、床に落ちているゴミ等をじっと見ていることがある。

＜CBQ-Rで「目立つ」「非常に目立つ」に丸がついた項目＞

- 動きが多く、落ち着かない。
- 奇妙なものに執着する。
- 物の置き方や順序にこだわる。
- 耳を覆ったり、音に不快を示す。
- 人を押したり、叩いたり、つねったりする。
- 物を投げたり、叩いたりする。
- 勝手に飛び出し、どこかに行ってしまう。

＜解 説＞

始点と終点を結びという課題を理解し通過していますが、手の動きを追う目の動きが安定していないことが現れています。安定して見ることの困難さが、離席する、落ち着かないなど行動面の特徴につながっているようです。イライラが人に向かうようですが、人の評価を気にすることは、集団の中での自分を意識する社会性が育っていることを意味しています。

注意が散りやすい反面、物の置き方や並びなど視覚的な秩序に関心があるようです。それらを通して、自分なりの物の見方を学んでいるのかもしれませんが。「耳を塞ぐ」など音への過敏が見られ、音刺激が多いところではイライラがつのるようです。一度に多くのことを要求せず、課題や指示は要素を少なくして伝えることで、情緒の安定が得られるでしょう。他者の評価を気にしていますので、ほめるときは人前でほめると効果的です。

### ⑤タイプ 始点と終点が結ばれているが、足を囲んでいる段階

【部分的に位置関係が逆転しているが、全体の形や方向は捉えている】と考えます。

始点と終点が結ばれ、課題の通過条件を充たしていますが、描線が大きく広がり、足を囲んでいます。見本とその周辺(上段)はうまく描けているが、下の段では足と腹の位置関係が逆転しているのは、課題は理解できているが位置関係の把握と運動のコントロールがうまくいかないことを示唆しています。

このタイプに動作見本は効果的でないのは明らかです。手をとって支援し、感覚と運動の反復練習で身につけるようにします。運動系の課題はより単純で短時間で結果の出るものが適しています。

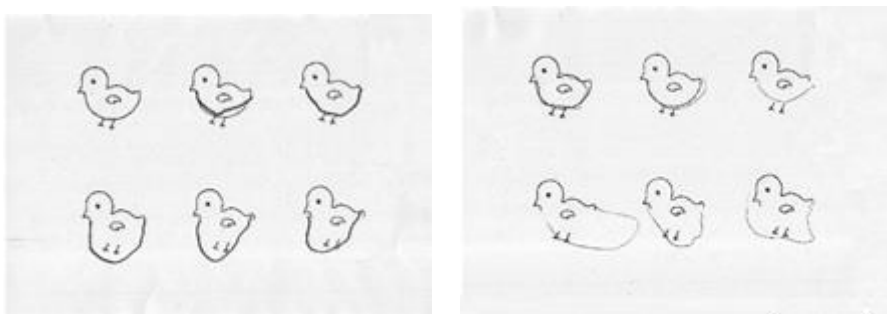


図 14 ⑤タイプ (足を囲む)

空間関係がうまくつかめないで、日常生活では初めてのことに強い恐怖心を示すことが多いようです。学習には真面目に取り組もうとする反面、ネガティブな評価に弱く、ちょっと失敗したなと思うと教材などを投げてしまい、二度とやろうとしないことがあります。「できない自分がわかってしまう」辛さに対しては、できる課題を中心に組んで、学習意欲を失わないようにする配慮が必要です。休み時間などで自発的に遊んでいる様子を観察し、その中でできていることを課題に取り入れます。

### 事例：Fさん 7歳女 StageⅢ-2：2語文以上で会話をする)

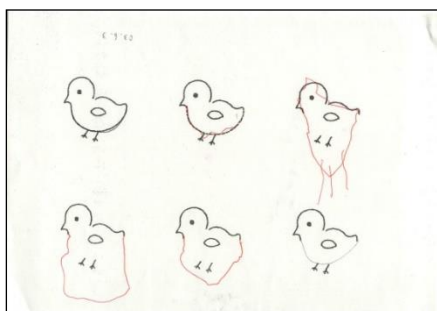


図 15 ⑤タイプの事例

＜担任の報告＞会話ができ、3つ位の単語を記憶できる。お手伝いに興味が出てきて、自分なりの創意工夫をしようとするが、長続きしない。気分がムラがあって行動に一貫性がない。作業課題では、新しい課題をみせるとしりごみをする。微細運動はがんばればできるが、本人に負担をかけないような学習を見つけてやりたい。

<CBQ-Rで「目立つ」「非常に目立つ」に丸がついた項目>

- 視線が合わない。
- 注意が散りやすい。
- 手先の細かい作業や身のこなしがぎこちない。
- 気分が落ち込む時期や高ぶる時期がある。
- 不安になったりこわがったりしやすい。

<解 説>

会話ができるお子さんですが、空間の位置関係の把握に困難があります。聴覚からの入力(言葉)の方が通じやすく、見本動作による教示は通じにくいと思います。手を使った運動を通して理解する方が負担が少なく、興味を持った作業課題については最初は手をもって教え、繰り返して身についた運動の感覚により視覚的認知の弱さを補います。微細運動が苦手であれば、粗大運動の中でも「よく見る」「身体と物との関係を視覚で把握する」などの学習はできます。たとえば、バーをまたぐ、線の上を歩く、連続して置かれたフープを渡っていく、などです。

空間関係の把握がうまくいかないと、新しい場所や新しい課題では物の位置関係はわからず不安なものです。初めての場所では一緒に壁を触りながら歩くなどして、触覚と運動により空間を理解させ、不安を軽減します。

#### ⑥タイプ 見本と同じような完成形を描く

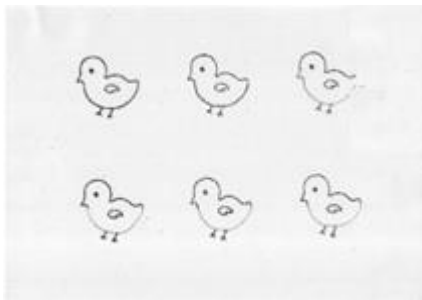


図 16 ⑥タイプの事例

視覚-運動機能が安定したことを示していますが、ASD では必ずしも行動が安定しているわけではありません。「きちんと描く」事例では、強いこだわりで不応になっている場合もあります。

TOB は、定型発達では、6歳で100%通過、その半数以上は⑥タイプを描きます。知的障害児では、StageⅢ-2以上でこのタイプが多くなります。

StageⅣ以上の場合は描線をよく観察することが重要です。上の事例では、中2でIQは80ですが、描線がやや揺れて④タイプに近く、知的発達に不釣り合いな視覚-運動の不安定さを示しています。このように全般的な知的発達が定型発達に近い場合は、より繊細な見方が必要です。